

令和6年度全国学力・学習状況調査 結果の概要及び今後の取組

丹波市立 青垣中学校

令和6年10月

本年4月18日(木)に中学3年生を対象に、国語・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査が実施されました。その結果を分析しましたので、概要についてお知らせします。学校と共に学習について考えていただく機会にしたいと思っています。

1) 調査の目的

- ◆義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る。
- ◆調査全体の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ◆学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2) 学力調査から見える成果と課題 及び 改善の方向性 調査結果〔全国との正答率比較〕

【国語】全国平均と同程度でした。

調査から見られる成果と課題

【成果】

- ・「選択式」「短答式」「記述式」の問題形式に関わりなく、正答率が県・全国平均を上回った。中一の調査と比べて力を伸ばしている。
- ・その中でも苦手であった「書くこと」は、全国平均を大きく上回る結果となった。(青 73.6% 全 65.3%)
- ・またリーディングスキルテストに取り組んできた成果として、全員が正答した問題があった。(3一青 100% 全 81.4%)
- ・さらに漢字を書く問題においても全国を上回り、言語に関する知識理解が定着している。(3三青 72.2% 全 68.8%)
- ※「話すこと・聞くこと」の能力が高まっている。学校全体で話法を活用し、相手に伝える取り組みが活かされている。
- ※言語事項についての小テストは毎時間取り組んでおり、基礎学力の定着を図っている成果であると考えられる。
- ・ここ数年の傾向として無回答率は、全国平均より低い項目が多く、引き続き国語の調査に取り組む前向きな姿勢が見られる。
- ※学校全体で「青中スタイル」という授業規律を意識し、誰もが分かる授業づくりや、安心して学び、落ち着いた姿勢で授業に取り組んでいる成果と考える。
- ※質問「国語の勉強は好きですか」の回答は「はい」(青 63.2% 全 24.4%)「大切だと思いますか」(青 89.5% 全 62.4%)「授業の内容はよく分かりますか」(青 73.7% 全 32.0%)の結果から、国語科の取組を好意的に受止めていることは大きな成果である。

【課題】

- ・「書くこと」において、条件作文は書けるようになっているが、要約作文については課題がある。(青 36.1% 全 42.6%)
- ・要約する力に結び付く「読むこと」の力は全国をやや下回っているため、注視すべき課題である。(青 46.5% 全 47.9%)

改善の方向性

- ・確かな「読み」につながるように、要約文を書く機会を多く取り入れ、互いに採点し合ったり、推敲し合ったりする活動を取り入れる。
- ・文章を深く読み、自分の考えをまとめ、書いた文章を使って授業展開し、読むこと、書くことの意義やおもしろさを豊かに体験させる。
- ・タブレットを用いて長文の下書きを書く機会を設け、書くことへの抵抗を軽減する。



【数 学】 全国平均と同程度でした。

調査から見られる成果と課題

【成果】

- ・平均正答率は51%（全国平均より-1.5、兵庫県平均より-4）
- ・問題番号3の正答率が80.6%（全国平均より+12.3、兵庫県平均より+10.3）
- ・問題番号7(2)の正答率が33.3%（全国平均より+7.4、兵庫県平均より+8.3）
- ・生徒質問紙51の選択肢1が60.5%（全国平均より+7.7、兵庫県平均より+8.9）
- ・生徒質問紙52の選択肢1が60.5%（全国平均より+25.4、兵庫県平均より+26.7）

【課題】

- ・どの領域においても全国平均を下回っている。
- 「数と式」-2.8% 「図形」-1.4% 「関数」-1.0% 「データの活用」-0.6%
- ・問題番号1の正答率が19.4%（全国平均より-15.4、兵庫県平均より-22.1）
- ・問題番号7(1)の正答率が55.6%（全国平均より-18.7、兵庫県平均より-19.4）
- ・生徒質問紙50の選択肢1が10.5%（全国平均より-18.9、兵庫県平均より-17.6）
- ・生徒質問紙56の選択肢1が13.2%（全国平均より-5.7、兵庫県平均より-3.5）

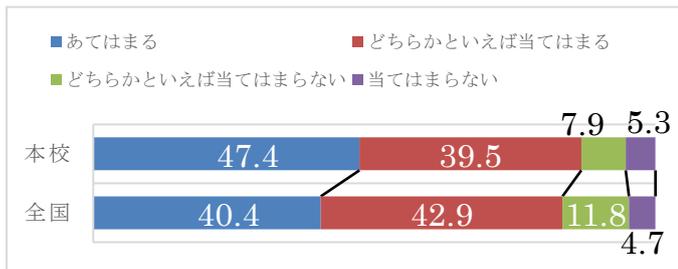
改善の方向性

- ・粘り強く学習に向かうことができるような指導をしていく。具体的には、グループで相談しながら解く時間や、レポート課題などテストのような時間制限がない課題を出すようにしていく。
- ・基礎基本の定着が図れるように、少人数授業や複数人指導など生徒の様子、生徒の要望を聞きながら実施していく。
- ・選択式の問題の正答率は全国平均よりも高いのに対して、記述式、短答式の答えは全国平均よりも低い。授業中の発表や小テストなどで、数学的な見方・考え方を表現する機会を増やしていく。

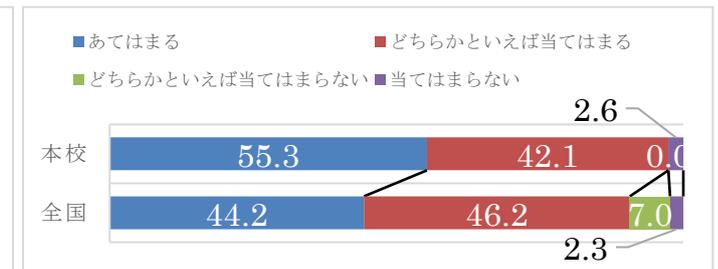
3) 生徒質問紙から見える成果と課題

自尊感情・自己有用感

①自分には、よいところがあると思いますか。



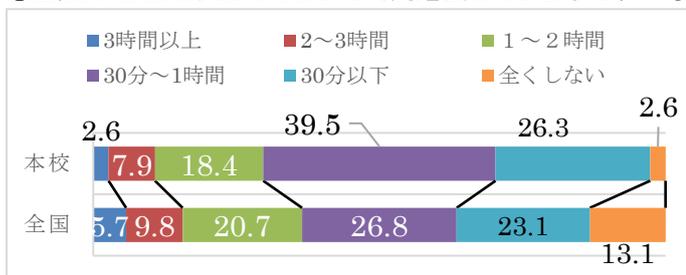
②先生は、あなたのようなところを認めてくれていると思いますか。



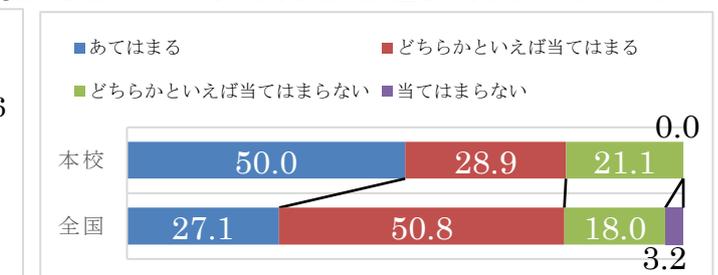
自分を肯定的にとらえている生徒が多く自己有用感が高い生徒が全国平均よりも多いです。これは各家庭をはじめ地域の中に、夢や希望を語るの目標となる大人がいることや、多様な生き方を認める環境が整っていることの成果であると思われます。今後ともキャリア教育の充実に努め、生徒の自立を支援してまいります。

学習習慣

③普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。



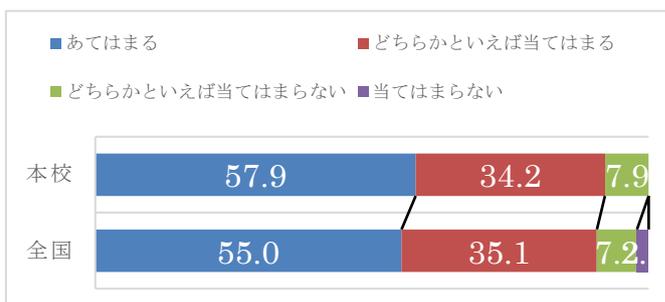
④分かった点やよくわからなかった点を見直し次の学習につなげていますか



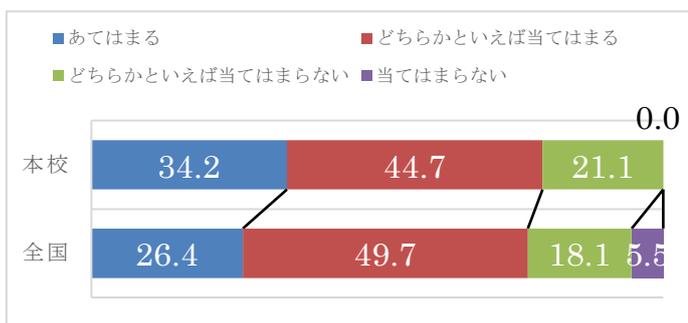
学校での授業(学習)に積極的に取り組んでいる様子がうかがえます。しかし、家庭学習の状況はやはり課題が大きいと言えます。学校での学習意欲を家庭学習にもつなげられるよう、授業や家庭学習の工夫、さらにICT(タブレット等)を有効活用した取り組みを進めます。各家庭においても、学習環境を整えることやスマホやゲーム等の使用ルールの作成など、学習に向かう子どもたちの支援をお願いしたい。

規範意識・生活習慣・地域連携

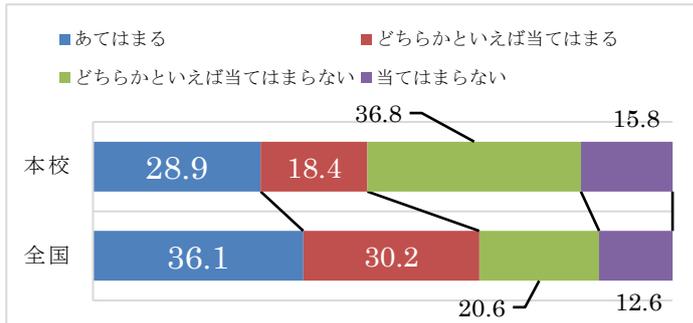
⑤いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。⑥友達関係に満足していますか。



⑦地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



⑧将来の夢や目標を持っていますか。



全校生徒の多くは規範意識が高く、基本的な生活習慣が身についていると考えられます。今後、全校生徒が「いじめはどんな理由があってもいけない」と思えるように今後も人権教育を推進していきます。また地域で活動している割合は、ほかの地域より非常に高いものがあります。これは本校の特徴であり、コミュニティスクールの活動をはじめ、地域の方々に支えていただいている成果だと考えます。引き続き青垣地域とともにある学校づくりを進めてまいります。